



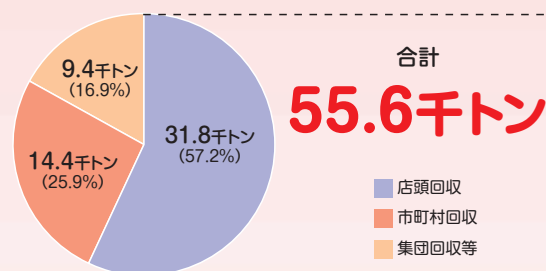
## 小売事業者のリサイクル状況

## 福祉作業所の回収状況

さまざまな規模の  
スーパーマーケットで  
店頭回収が進んでいます。

家庭系紙パックの回収拠点として50%以上の回収量を担う店頭回収は、前年度に比べ7.4千トン増加しました。その理由の一つは、スーパーマーケットの調査をさらに徹底したことです。日本スーパーマーケット協会と日本生協連の調査結果に基づく推計に、その会員外である店舗を対象とした独自調査結果を加える方法をとっています。本年度、950チェーンのスーパーマーケットにアンケート調査を実施し、国内の店舗をほぼ網羅することができました。調査範囲の拡大に伴い、回収量自体も大幅に増加しました。

家庭系紙パックの回収拠点別回収量(推計値)



### 取り組んでいます! リサイクル

#### 株式会社 カスミ

(本社:茨城県つくば市)

##### 取り組み事例

地域の食習慣や食文化を取り入れた地域密着型の売場づくりをめざし、茨城県を中心に千葉、埼玉、栃木、群馬の5県に134店舗を展開するカスミ。環境への取り組みが企業の存在と活動の必須要件と認識し、生鮮廃棄物の飼料化やオフィス用紙の分別リサイクル、物流センターでは商品入荷時に使用されているPPバンドやラップのリサイクル等で、廃棄物の削減に努めています。

また、食品トレーや牛乳パック等の店頭回収、リターナブルコンテナの活用、簡易包装やレジ袋の削減運動はもとより、配送車のエコドライブや一部BDF(バイオ・ディーゼル燃料)の使用、LED照明や太陽光発電の導入による節電等、多岐にわたる取り組みを展開しています。

牛乳パックの回収は1991年度からスタートし、2007年度には約155トン(1,000mlパック換算で約517万枚)となり、2008年度上期も約86トン回収しています。回収した紙パックは物流センターで集約し、製紙メーカーでトイレットペーパー等にリサイクルされています。

また、従業員一人ひとりの環境意識向上のため、「マイバッグ・マイはしの持参」や「アースデイ活動」、「従業員用の環境家計簿」等、幅広い活動を推進しています。



店頭で設置された回収ボックス



店舗で扱っている紙パック再利用製品

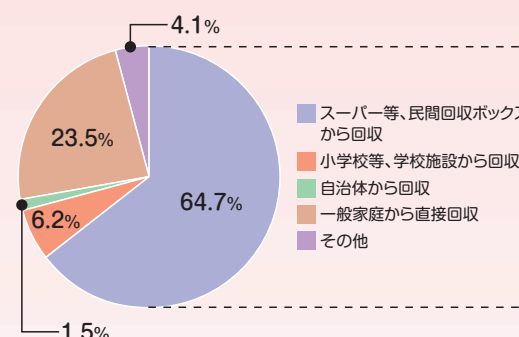
民間回収ボックスからの  
回収が6割以上。納入価格も  
着実にアップしています。

福祉作業所と市民団体にアンケート調査を実施した結果、0.5千トンの回収量がありました。

回収先は、スーパー等民間の回収ボックスが回収量全体の6割以上を占めています。アンケート結果から浮かび上がる課題としては、「異物の混入など消費者マナーの低下」、「回収側に対する管理徹底の要望」、「作業対価に見合わない収入」などがあります。

回収した紙パックの納入先は、再生紙メーカー、回収業者、古紙直納問屋などで、平均取引価格は12.3円/kgと、2006年度より1kgあたり1円上昇しています。

福祉作業所、市民団体の紙パック回収量に占める回収先割合



### 取り組んでいます! リサイクル

#### 社会福祉法人 夢工房福祉会 ワークスペース夢工房

(長野県須坂市)

##### 取り組み事例

障害者共同作業所として、平成12年4月に開設。その後、福祉的就労・社会参加促進の活動の場として、平成16年10月に社会福祉法人夢工房福祉会を設立しました。

通所授産施設「ワークスペース夢工房」では、牛乳パックリサイクルによる各種紙製品の製作・販売や名刺等の印刷、手織り機による各種製品(帽子、ポシェット、パスなど)の製作・販売を行っています。

紙パックの回収先は、須坂市役所や家庭、商店、スーパー、小学校など市内50カ所。近くにテント倉庫があり、北信ブロックのストックヤードになっています。紙パックの年間回収量は北信ブロックで65トン、他のブロックも加えた長野セルフセンター全体で約185トンとなっています。

牛乳パックを再利用し一枚一枚丁寧に仕上げた手すき紙に、通所者が描いた山野草をデザインした卓上カレンダーを製作するなど、施設としてリサイクル製品の付加価値を高める取り組みも行っています。



通所者がスケッチした山野草の原画とそれをデザインした人気の手すき紙卓上カレンダー



通所者によるイラストをあしらった製品



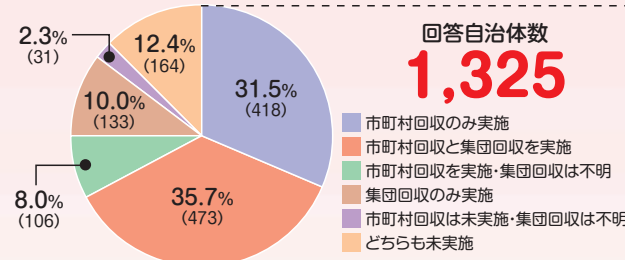
# 市町村回収・集団回収の状況

より正確な実態把握を  
推進しています。

本調査では、市町村や一部事務組合等が行う収集運搬・処理を「市町村回収」、市町村に登録された住民団体による回収を「集団回収」としています。昨年度と同様に正確な実態把握をするために、全国すべての1,816市町村を調査対象とし、1,325市町村から回答を得ました。

市町村の回収状況は円グラフの通りです、市町村回収の実施率は昨年度とほぼ同じ75.2%でした。また、実施率を経年的に調査している市(政令指定都市、特別区含む)については、市町村回収の実施率は1994年の26%から2007年度は82%と3倍以上に増加しており、自治体が紙パックの分別回収に積極的に取り組んできたことがわかります。

市町村回収と集団回収の実施率



一般市と政令指定都市の  
回収量は増加傾向にあります。

都市類型を4つに分けて、市町村回収量と集団回収量を推計しています。市町村回収は14.4千トン、集団回収は8.4千トンでした。

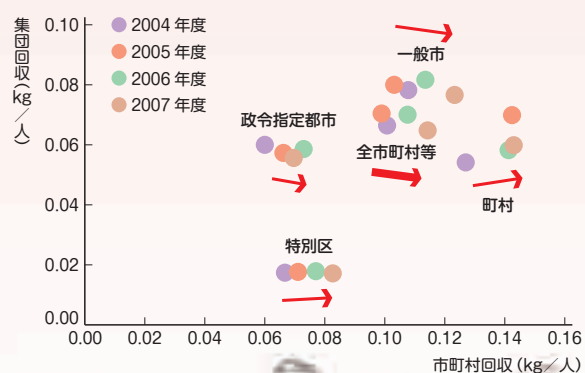
人口の64%を占めている一般市が市町村回収・集団回収ともに例年通り他を牽引しています。政令指定都市は人口比率が増加したこともあり、市町村回収で0.1千トン増加しています。

一人当たりの回収量は、人口が最も多い一般市が市町村回収・集団回収ともに多く、全体的には集団回収から市町村回収に移行しています。

都市類型別の市町村回収・集団回収推計回収量

	全体	一般市	政令指定都市	特別区	町村
市町村回収					
推計量(千トン)	14.4	10.1	1.7	0.7	1.9
都市類型別回収量比率	100%	70%	12%	5%	13%
1人あたりの回収量(kg/人)	0.113	0.124	0.070	0.084	0.143
集団回収					
推計量(千トン)	8.4	6.2	1.3	0.1	0.8
都市類型別回収量比率	100%	73%	16%	2%	9%
1人あたりの回収量(kg/人)	0.067	0.076	0.055	0.017	0.059
都市類型人口(百万人)	127	81	24	8	13

市町村回収と集団回収の都市類型別単位の推移

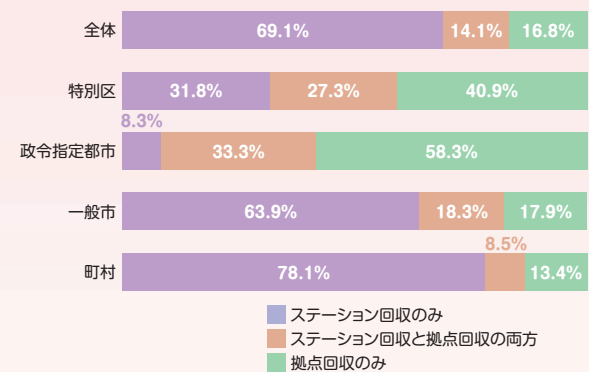


都市規模が小さいほど、  
ステーション回収を実施。

市町村での回収は、ステーション回収(戸別回収含む、いわゆる分別回収)と拠点回収の2方式に分けることができます。ステーション回収は拠点回収に比べ利用者の利便性が高く、市町村回収を実施している8割を超える市町村で、ステーション回収が実施されていることがわかりました。市町村回収実施率75.2%と合わせると、全国の約6割の自治体で、ステーション回収が実施されていることとなります。

また都市類型別に見ると、町村と一般市でステーション回収が8割を超えるのに対して、政令指定都市や東京都特別区といった大都市では半分ほどになっており、都市規模が小さいほどステーション回収が高く、都市規模が大きいほど拠点回収が高い傾向にあることがわかります。

都市類型別・回収方法の比率



## 取り組んでいます! リサイクル

### 兵庫県明石市

取り組み事例

ISO14001自己宣言自治体として、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進で循環型のまちをつくる、という理念を持つ明石市。再資源化可能物の集団回収に助成を行っていることを始め、市長の附属機関として「資源循環推進審議会」を設置したり、「あかし環境フェア」等さまざまな啓発イベントを開催するなど、3Rの促進に向けて多彩な取り組みを行っています。平成11年に竣工した大型施設「明石クリーンセンター」には各種の破碎選別設備や排ガス対応の大型焼却炉が完備され、再資源化や余熱利用(発電、熱回収等)がしっかりとシステム化されています。

市民の意識も高く、「あかし環境フェア」はもちろん市主催の「環境学習講座」などの啓発イベントには、毎回多くの方が親子で参加。紙パックを利用したエコ粘土づくりや手すき紙づくりなどを楽しみながら、親子で環境への意識を育む光景がよく見られます。



市民でにぎわう「あかし環境フェア」



# 学校のリサイクル状況

# 再生紙メーカーのリサイクル状況

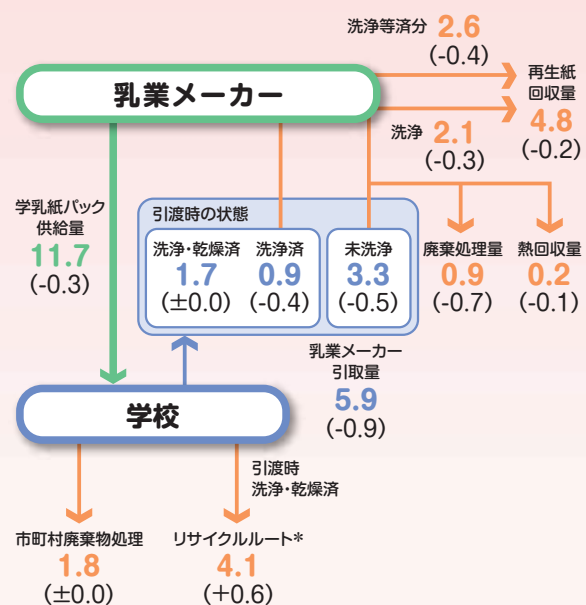
学乳紙パックの回収量は着実に増加しています。

学乳紙パックとして使用された紙パックは11.7千トン(前年度比0.3千トン減)で、その75.2%にあたる8.8千トンが再生紙原料として回収されました。

これは前年より5.7ポイント増で、学校におけるリサイクル量は年々増加しています。なお近年、乳業メーカー引き取り分が減少し、学校が直接処理する傾向が強まっています。

また、使用済み紙パックを洗浄・乾燥している学校は、昨年度の42.8%から48.5%へ増加。「洗って・開いて・乾かして」という回収ルールが、しっかり定着していることがわかります。

学乳紙パックのマテリアルフロー(推計値)



\*古紙回収業者、製紙メーカー、市町村の資源ごみ収集、市民団体など  
 ※単位：千トン  
 ※( )内は2006年度推計値との差です。  
 ※四捨五入しているため、合計と一致しない箇所があります。

## 取り組んでいます! リサイクル

### 金沢市立泉野小学校 (石川県金沢市)

#### 取り組み事例

クラブ活動「いずみの理科エコクラブ」が新聞社主催の「環境かべ新聞コンテスト」で優秀賞を受賞し、洞爺湖サミットに伴って開かれた「第1回こども環境サミット」に生徒が招待されたり、料理実習で素材の皮を捨てない「エコッキング」を行うなど、環境への意識が高い泉野小学校。

学乳紙パックのリサイクルについても取り組みが行われています。給食前に、当番の生徒が教室の廊下に水を入れたバケツを用意。食事が終わると、生徒たちは天面を開いた紙パックを水に浸し、水切りカゴに伏せて並べます。1~2日干された紙パックを当番の生徒が切り開き、段ボール箱に詰めます。週末まで学級ごとにためた紙パックを業者が引き取り、トイレトペーパーにリサイクル。泉野小学校のトイレトペーパーは、すべて紙パックのリサイクルでまかなわれます。

学乳紙パックのリサイクルは、金沢市のすべての小学校で実施されているとのこと。



学乳紙パックを洗う生徒



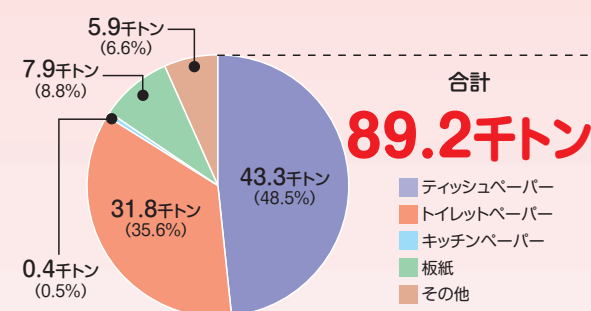
整理された学乳紙パック

続く再資源化量の増加。ティッシュペーパーへの利用が第1位に。

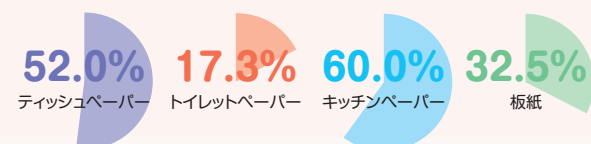
アンケートに回答のあった再生紙メーカー20社のうち、国内で発生した紙パック損紙・古紙を受け入れているという回答は12社、その他に紙パック損紙・古紙を原料とした再生パルプを購入しているという回答が7社ありました。

再資源化量は昨年より9.0千トン増の89.2千トンで、その内訳は下記の通りです。紙パックは、トイレトペーパーやティッシュペーパーなどの家庭紙の原料として多く使われています。特に、近年ではティッシュペーパーの原料として使われる率が高くなり、今年度はトイレトペーパーを抜いて利用量第1位となりました。

リサイクル製品への利用状況



リサイクル製品への紙パックの平均配合率



## 取り組んでいます! リサイクル

### 山田洋治商店 (東京都練馬区)

#### 取り組み事例

紙パックの循環型リサイクルシステムを確立し、20年間継続。現在はISO14001やプライバシーマークを取得し、学乳紙のリサイクルの指導や行政委託事業への参入など、活動範囲を拡大しています。

地域密着型の企業を目指し、イベント等に積極的に参加。紙すき体験を実施したり、牛乳パックを持参してくださった方に再生ロールを配布するなどの活動も行っています。

回収とリサイクル啓発活動をバランスよく展開するほか、循環型リサイクルシステムの担い手である丸富製紙(株)と共同で、紙パックリサイクルをさらに進めるための取り組みや研究も熱心に行っています。

これからも「さらなる発想力と行動力で循環型リサイクルの発展を支え、つねに必要なとされる企業であり続ける」姿勢を大切にしながら、「新しい発想」と「積極的な行動力」でリサイクルの可能性を追求しています。



地域のイベントで紙すき体験を実施



牛乳紙パックと再生ロールの交換活動も